

科目名 (英)	健康と社会保障 (Health and Social Security)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	野村 利明
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 1・2時限
【授業の学習内容と心構え】 消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務・事務に携わり、看護師資格を有する教員が、救急現場における症例に触れながら健康と社会保障に関する知識習得を目的とした授業を行う。プロフェッショナルとして将来の救急医療を担っていくために必須となる知識であり、自身を含めた国民全体の健康を支える仕組みについて日頃から興味を持つきっかけとして活用してほしい。また、医療を取り巻く環境と社会保障についても扱うため、救急救命士としてどのように社会貢献をしていきたいのか熟考する機会となることを望む。							
【到達目標】 保険医療制度・社会保障制度の仕組みと現状に関わる基礎知識と、関連する医療現場で使われる用語について説明できる。 チーム医療と、その一翼を担う救急救命士の役割について知ることが出来る。							
【使用教科書】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト				【授業外における学習】 専門用語が頻繁に出てくるため、あらかじめ教科書(p24-63)を読み、予習しておくこと。各章の冒頭に記載されている「到達目標」と各項「Point」を確認してまわっておくほか、関連するニュース記事等を調べておくことと良い。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 公衆衛生の仕組み 【授業形態】 講義 【到達目標】 健康の定義が言え、影響する因子を4つ以上説明できる。 公衆衛生とは何か説明できる。 公衆衛生に関連する行政組織について説明できる。			9	【授業単元】 社会保障と社会福祉の仕組み① 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会保障と社会福祉の仕組みについて説明できる。社会保障に関わる費用の動向について説明できる。		
2	【授業単元】 医療を取り巻く環境 【授業形態】 講義 【到達目標】 少子高齢化について説明できる。 我が国の総人口・平均寿命・健康寿命についておよその数値が言える。死亡原因5位まで挙げることができる。我が国最大の感染症とその罹患率について先進国との関係性が言える。			10	【授業単元】 社会保障と社会福祉の仕組み② 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会保障と社会福祉の仕組みについて説明できる。社会保障に関わる費用の動向について説明できる。社会保障の国民負担率について諸外国との比較について説明できる。		
3	【授業単元】 医療供給体制① 【授業形態】 講義 【到達目標】 保険医療従事者の資格を3つ挙げ、その関係性とおよその有資格者数が言える。医療圏の区分3つが言える。医療計画重点項目の5疾病5事業が言える。在宅医療と地域包括ケアの対象者が言える。			11	【授業単元】 社会保険と制度① 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会保険制度の5種類が言える。社会保険の保険者と被保険者について説明できる。医療保険制度3つを言える。介護保険制度の保険者と被保険者について説明できる。公的年金保険制度について具体的に説明することができる。		
4	【授業単元】 医療供給体制②・環境保健 【授業形態】 講義 【到達目標】 例年発生する食中毒患者の概数と多発する時期が言える。我が国の上下水道普及率の概数が言える。環境基準が定められている物質を3つ以上挙げることができる。我が国における公害事件を2つ以上上げることができる。			12	【授業単元】 社会保険と制度② 【授業形態】 講義 【到達目標】 社会保険制度の5種類が言える。社会保険の保険者と被保険者について説明できる。医療保険制度3つを言える。介護保険制度の保険者と被保険者について説明できる。公的年金保険制度について具体的に説明することができる。		
5	【授業単元】 労働衛生・学校保健・母子保健を支える仕組み① 【授業形態】 講義 【到達目標】 我が国の就労人口と労働災害死傷者数についておよその数を用いて説明できる。何名以上の事業所で産業医を選任する必要があるか言える。学校管理下での死亡数概算と予防策を3つ以上言える。			13	【授業単元】 社会福祉と制度① 【授業形態】 講義 【到達目標】 生活保護法における保護の種類8つが言える。児童虐待の4タイプが言える。高齢者福祉サービス施設について説明できる。高齢者虐待の現状と背景について説明できる。		
6	【授業単元】 労働衛生・学校保健・母子保健を支える仕組み② 【授業形態】 講義 【到達目標】 出生率・乳児死亡率・妊産婦死亡率の概算が言える。乳幼児健診の受診率が言える。母子保健を支える仕組みを理解する。			14	【授業単元】 社会福祉と制度② 【授業形態】 講義 【到達目標】 母子及び寡婦福祉の現状とその背景について具体的な数字を挙げて説明できる。障害者の定義が言え、各種障害者手帳所持者数の概算が言える。		
7	【授業単元】 地域保健・高齢者・精神保健を支える仕組み 【授業形態】 講義 【到達目標】 地域保健を支える中心となる組織とその役割を理解する。高齢者を支える仕組みを理解する。精神保健福祉を支える仕組みを理解し、入院形態の違いを説明することができる。			15	【授業単元】 定期試験・終了後の解答解説 【授業形態】 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、課題を抽出する。 抽出された課題の何が分からなかったのかを特定する。		
8	【授業単元】 定期試験・終了後の解答解説 【授業形態】 【到達目標】 わからない問題の洗い出しをし、課題を抽出する。 抽出された課題の何が分からなかったのかを特定する。			【評価について】 評価は筆記試験で行う。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 毎授業において、指示した内容は必ずメモを取ること。講義において、ノート丁寧にとること。							

科目名 (英)	救急症候・病態生理学Ⅰ (Emergency symptoms・PathophysiologyⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	菊川 忠臣
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 (3)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 2・3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 救急救命士として、当校および大学等で長年教育に携わっている教員が授業を担当する。様々な症候がなぜ起こるのか、すなわち、身体機能の異常がどのような原因で起こっているのかを理解することが、病院前救護の現場活動(観察、判断、処置、搬送)を進める上で重要になる。本科目を学ぶ上で、関連疾患についての知識も必要になるため、疾病救急医学と並行して学習する必要がある。また、本科目で学んだ知識をシミュレーション実習で応用し、「臨床推論」に役立ててほしい。							
【到達目標】 呼吸不全・心不全・ショック・重症脳障害・心肺停止の概念を理解できる。 呼吸不全・心不全・ショック・重症脳障害・心肺停止を引き起こす主な疾患と、疾患別の随伴症候を列挙できる。 呼吸不全・心不全・ショック・重症脳障害・心肺停止の原因に応じた対応や医療機関選定の判断ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト改訂第10版 出題分野別国試問題・解説集A・B問題編 出題分野別国試問題・解説集C・D問題編				【授業外における学習】 各単元に関わる「構造と機能」を復習すること。 各単元で出てくる「疾患」について予習すること。 「救急救命士標準テキスト」を使用し、関連ページを読み込むこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【授業単元】 呼吸不全 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸不全の定義と概念について説明できる 低酸素血症の発症機序を説明できる 高二酸化炭素血症の発症機序を説明できる 換気障害の種類について説明できる			17・18	【授業単元】 重症脳障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 脳ヘルニアの種類と進展に伴う所見の変化を説明できる 特殊な意識障害について説明できる		
3・4	【授業単元】 呼吸不全 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸不全の定義と概念について説明できる 低酸素血症の発症機序を説明できる 高二酸化炭素血症の発症機序を説明できる 換気障害の種類について説明できる			19・20	【授業単元】 心肺停止 【授業形態】 講義 【到達目標】 心肺停止の定義と概念について説明できる 心肺停止に至る病態と原因について説明できる 心肺停止の心電図分類について説明できる 心肺蘇生中の循環動態について説明できる		
5・6	【授業単元】 心不全 【授業形態】 講義 【到達目標】 心不全の定義と概念について説明できる 心不全の病態生理について説明できる 心不全の症候について説明できる 心不全の種類について説明できる			21・22	【授業単元】 心肺停止 【授業形態】 講義 【到達目標】 心拍再開を示唆する所見について説明できる 心拍再開後の病態について説明できる		
7・8	【授業単元】 心不全 【授業形態】 講義 【到達目標】 心不全の定義と概念について説明できる 心不全の病態生理について説明できる 心不全の症候について説明できる 心不全の種類について説明できる			23	【授業単元】 定期試験(全範囲)、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
9・10	【授業単元】 ショック 【授業形態】 講義 【到達目標】 ショックの定義と概念について説明できる ショックの種類について説明できる 各ショックの原因疾患について説明できる 各ショックの発症機序について説明できる			【授業単元】			
11・12	【授業単元】 ショック 【授業形態】 講義 【到達目標】 各ショックの循環動態について説明できる 各ショックの症候について説明できる 各ショック傷病者に対する現場活動を説明できる						
13・14	【授業単元】 中間試験(呼吸不全・心不全・ショック)、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】						
15・16	【授業単元】 重症脳障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 重症脳障害の定義と概念について説明できる 重症脳障害の発症機序について説明できる 一次性脳病変と二次性脳病変の違いを説明できる 頭蓋内圧亢進の機序・症候・因子について説明できる			【評価方法について】 本科目の評価は試験(80点)とレポート点(20点)の合計100点満点で評価する。試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計点に0.8をかけたものが試験点となる。試験は五択問題と記述問題を合わせたものである。レポートの課題内容、提出要領については授業内で告知する。レポートは減点方式をとる。誤字・脱字などがあればその都度、1点ずつ減点していく。また、提出要領に沿わない内容の場合は5点減点、提出期限を守らないものは0点とする。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	救急症候・病態生理学Ⅱ (Emergency symptoms・PathophysiologyⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	野村 利明
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 (3)	開講区分	前期 木曜 1・2時限
【授業の学習内容と心構え】 消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務・事務に携わり、看護師資格を有する教員が、様々な症候や病態生理に基づき、迅速かつ的確な判断及び処置を実施出来る救急救命士を養成するため、現場経験を踏まえた授業を実施する。 専門職である救急救命士が個人・チームとして、傷病者のために何が必要であるかを各々が常に考えながら、受講してほしい。							
【到達目標】 自覚症状＝傷病者本人が自覚する異常(症状)と他覚所見＝他者によって観察される異常(徴候)の2つの側面を生理学と関連付けて理解し、説明できる。 症候学・生理学がシミュレーション実習と直結することを踏まえ、個人・チームそれぞれの観点から現場活動と関連付けて理解することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト ビジュアルノート				【授業外における学習】 テキスト該当範囲における不明な語句、文章及び資料は予め調べて授業に臨むこと。また、各小テストの復習を確りと行うこと。			
回	授業概要			回	授業概要		
1, 2	【授業単元】 呼吸困難 【授業形態】 講義 【到達目標】 呼吸困難をきたす疾患の症状・徴候を理解し、説明できる。			17, 18	【授業単元】 動悸 【授業形態】 講義 【到達目標】 動悸をきたす疾患の症状・徴候を理解し、説明できる。		
3, 4	【授業単元】 呼吸困難 【授業形態】 講義、小テスト 【到達目標】 呼吸困難をきたす疾患を現場活動と関連付けて理解し、説明できる。			19, 20	【授業単元】 動悸 【授業形態】 講義、小テスト 【到達目標】 呼吸困難をきたす疾患を現場活動と関連付けて理解し、説明できる。		
5, 6	【授業単元】 喀血 【授業形態】 講義 【到達目標】 喀血をきたす疾患の症状・徴候を理解し、できる。			21, 22	【授業単元】 呼吸困難～動悸 【授業形態】 演習 【到達目標】 呼吸困難～動悸の国家試験レベル問題を理解し、適度な速さで解答を導くことができる。		
7, 8	【授業単元】 喀血 【授業形態】 講義、小テスト 【到達目標】 喀血をきたす疾患を現場活動と関連付けて理解し、説明できる。			23	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 試験 【到達目標】 国家試験レベルの問題を理解し、適度な速さで解答を導くことができる。		
9, 10	【授業単元】 失神 【授業形態】 講義 【到達目標】 失神をきたす疾患の症状・徴候を理解し、説明できる。						
11, 12	【授業単元】 失神 【授業形態】 講義、小テスト 【到達目標】 失神をきたす疾患を現場活動と関連付けて理解し、説明できる。						
13, 14	【授業単元】 胸痛 【授業形態】 講義 【到達目標】 胸痛をきたす疾患の症状・徴候を説理解し、説明できる。						
15, 16	【授業単元】 胸痛 【授業形態】 講義、小テスト 【到達目標】 胸痛をきたす疾患を現場活動と関連付けて理解し、説明できる。				【評価について】 小テスト、中間試験、定期試験で100点満点の総合評価とする。 但し、遅刻及び欠席を加味し、上記から減点を行うものとする。 小テスト 中間試験(国家試験形式) 定期試験(国家試験形式)		
【特記事項】				評価方法は学則規定に準ずる。			

科目名 (英)	救急症候・病態生理学Ⅲ (Emergency symptoms・PathophysiologyⅢ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	菊川 忠臣
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	後期
						曜日・時間	月曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 救急救命士として、当校および大学等で長年教育に携わっている教員が授業を担当する。様々な症候がなぜ起こるのか、すなわち、身体機能の異常がどのような原因で起こっているのかを理解することが、病院前救護の現場活動(観察、判断、処置、搬送)を進める上で重要になる。本科目を学ぶ上で、関連疾患についての知識も必要になるため、疾病救急医学と並行して学習する必要がある。また、本科目で学んだ知識をシミュレーション実習で応用し、「臨床推論」に役立ててほしい。							
【到達目標】 各種症候(運動麻痺、めまい、腹痛、吐血・下血、腰痛・背部痛、体温上昇)の発症機序、原因疾患、緊急度・重症度の判断、現場活動について理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト改訂第10版 出題分野別国試問題・解説集A・B問題編 出題分野別国試問題・解説集C・D問題編				【授業外における学習】 各単元に関わる「構造と機能」を復習すること。 各単元で出てくる「疾患」について予習すること。 「救急救命士標準テキスト」を使用し、関連ページを読み込むこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1,2	【授業単元】 運動麻痺 【授業形態】 講義 【到達目標】 運動麻痺の発症機序を説明できる 運動麻痺の分類と原因疾患について説明できる 運動麻痺の随伴症候について説明できる 運動麻痺の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
3,4	【授業単元】 めまい 【授業形態】 講義 【到達目標】 めまいの発症機序を説明できる めまいの分類と原因疾患について説明できる めまいの随伴症候について説明できる めまいの緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
5,6	【授業単元】 腹痛 【授業形態】 講義 【到達目標】 腹痛の発症機序を説明できる 腹痛の原因疾患について説明できる 腹痛の随伴症候について説明できる 腹痛の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
7,8	【授業単元】 中間試験(運動麻痺・めまい・腹痛) 【授業形態】 講義 【到達目標】						
9,10	【授業単元】 吐血・下血 【授業形態】 講義 【到達目標】 吐血・下血の発症機序を説明できる 吐血・下血の原因疾患について説明できる 吐血・下血の病態について説明できる 吐血・下血の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
11,12	【授業単元】 腰痛・背部痛 【授業形態】 講義 【到達目標】 腰痛・背部痛の原因疾患について説明できる 腰痛・背部痛の緊急度・重症度の判断を説明できる 腰痛・背部痛の現場活動を説明できる						
13,14	【授業単元】 体温上昇 【授業形態】 講義 【到達目標】 体温上昇の発症機序を説明できる 体温上昇の病態について説明できる 体温上昇の分類と原因疾患について説明できる 体温上昇の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
15	【授業単元】 定期試験(吐血・下血、腰部痛・背部痛、体温上昇) 【授業形態】 講義 【到達目標】				【評価方法について】 中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。試験は五択問題と記述問題を合わせたものである。 評価は学則規定に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	救急症候・病態生理学Ⅳ (Emergency symptoms・PathophysiologyⅣ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	菊川 忠臣
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 2・3時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 救急救命士として、当校および大学等で長年教育に携わっている教員が授業を担当する。様々な症候がなぜ起こるのか、すなわち、身体機能の異常がどのような原因で起こっているのかを理解することが、病院前救護の現場活動(観察、判断、処置、搬送)を進める上で重要になる。本科目を学ぶ上で、関連疾患についての知識も必要になるため、疾病救急医学と並行して学習する必要がある。また、本科目で学んだ知識をシミュレーション実習で応用し、「臨床推論」に役立ててほしい。							
【到達目標】 各種症候(意識障害、頭痛、痙攣)の発症機序、原因疾患、緊急度・重症度の判断、現場活動について理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト改訂第10版 出題分野別国試問題・解説集A・B問題編 出題分野別国試問題・解説集C・D問題編				【授業外における学習】 各単元に関わる「構造と機能」を復習すること。 各単元で出てくる「疾患」について予習すること。 「救急救命士標準テキスト」を使用し、関連ページを読み込むこと。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【授業単元】 意識障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 意識障害の原因について説明できる 意識障害の随伴症候について説明できる 意識障害の代表的な原因疾患について説明できる 意識障害の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
2	【授業単元】 意識障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 意識障害の原因について説明できる 意識障害の随伴症候について説明できる 意識障害の代表的な原因疾患について説明できる 意識障害の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
3	【授業単元】 頭痛 【授業形態】 講義 【到達目標】 頭痛の発症機序について説明できる 頭痛の分類と原因疾患について説明できる 頭痛の発症状況・性状、随伴症候について説明できる 頭痛の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
4	【授業単元】 頭痛 【授業形態】 講義 【到達目標】 頭痛の発症機序について説明できる 頭痛の分類と原因疾患について説明できる 頭痛の発症状況・性状、随伴症候について説明できる 頭痛の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
5	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】						
6	【授業単元】 痙攣 【授業形態】 講義 【到達目標】 痙攣の病態について説明できる 痙攣の分類と原因疾患について説明できる 痙攣の随伴症候、判別について説明できる 痙攣の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
7	【授業単元】 痙攣 【授業形態】 講義 【到達目標】 痙攣の病態について説明できる 痙攣の分類と原因疾患について説明できる 痙攣の随伴症候、判別について説明できる 痙攣の緊急度・重症度の判断、現場活動を説明できる						
8	【授業単元】 定期試験(全範囲)、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】				【評価方法について】 中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。試験は五択問題と記述問題を合わせたものである。 評価は学則規定に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	疾病救急医学Ⅰ (Disease Emergency MedicineⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	野村 利明
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 (3)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 3・4時限
【授業の学習内容と心構え】 消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務・事務に携わり、看護師資格を有する教員が、生命の危機にある傷病者の緊急度・重症度判定し、適切な救急処置を行う方法を具体的に提示する。救急医療の現場では、傷病者の状況を適切にとらえ、正しい定義に基づいた言葉による情報共有が求められる。講義における学生とのコミュニケーションでは、言葉の定義をわかるまで何度でも確認し、適切に用いる練習を行っていく。							
【到達目標】 ①救急疾患のなかで重症度・緊急度の高い神経系疾患・呼吸系疾患・循環系疾患について、発生機序や症状を解剖生理学的・生化学的理解を基に判断することができる。 ②それぞれの疾病について、解剖生理学的・生化学的根拠をもとに必要な処置について考えることができる。 ③神経系疾患、呼吸系疾患、循環系疾患の情報共有で用いる言葉を正確に理解することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 改訂第10版救急救命士標準テキスト その他、補足資料は講義ごとに配布する。				【授業外における学習】 テキスト内の言葉の完全理解をめざすため、事前に言葉の意味を確認しておくこと。1年生のときに用いた生化学や解剖学など、関連する資料を持参すること。			
回	授業概要	回	授業概要				
1・2	【授業単元】疾病救急医学総論 神経系疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①脳神経系の主要症候の定義を正しく説明できる ②二次的な脳障害を最小限にするための応急処置について説明できる ③くも膜下出血と症状との関係を、解剖生理を踏まえて説明できる	17・18	【授業単元】循環系疾患③ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①不安定狭心症と安定狭心症の違いを説明できる。 ②心筋疾患をひとつ挙げ、症状と病態生理を説明できる。 ③心臓疾患をひとつ挙げ、症状と病態生理を説明できる。				
3・4	【授業単元】神経系疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①脳出血の出血部位と症状との関係を解剖生理を踏まえて説明できる ②脳梗塞と基礎疾患との関係を説明できる ③脳ヘルニアの進行と重症度との関係を説明できる	19・20	【授業単元】循環系疾患④ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①不整脈ではない心電図の特徴を3つ挙げることができる。 ②循環不全・心停止に至る不整脈を3つ以上挙げることができる。 ③心筋梗塞後に起こりやすい不整脈と循環動態への影響を説明できる。				
5・6	【授業単元】神経系疾患③ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①末梢神経疾患をきたす疾患を2つ挙げ、病態生理を説明できる。 ②てんかんの部分発作と全般発作の違い及び病態生理を説明できる。 ③神経の変性部位と症状との関係を説明できる。	21・22	【授業単元】循環系疾患⑤ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①緊急性のある先天性心疾患を挙げることができる。 ②解離性動脈瘤の部位と症状との関係について説明できる。 ③血栓症の種類と症状を説明できる／④致死的高血圧を説明できる				
7・8	【授業単元】呼吸系疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①呼吸器疾患の主要症候を正しく説明できる。 ②呼吸器疾患の緊急度・重症度を判断するポイントを挙げることができる。 ③上気道閉塞の徴候と応急処置について説明できる	23	【授業単元】理解度判定と評価 【授業形態】 【到達目標】				
9・10	【授業単元】呼吸系疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①気管支喘息の重症度に応じた対応が説明できる。 ②閉塞性肺疾患の概観的な特徴を病態生理を踏まえ説明できる。 ③呼吸器感染症を想定した個人防護について説明できる。						
11・12	【授業単元】呼吸系疾患③ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①気胸による胸腔内圧の上昇がもたらす二次障害を説明できる ②胸膜炎の概要を説明できる。 ③過換気症候群と判断する徴候を挙げることができる						
13・14	【授業単元】呼吸系疾患④循環系疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①ARDSと心原性肺水腫の病態生理の違いを説明できる ②循環器疾患の主要症候の定義を正しく説明できる。 ③虚血性心疾患の危険因子を説明できる。						
15・16	【授業単元】循環系疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①急性冠症候群の定義を正しく説明できる。 ②急性心筋梗塞後の合併症と発症時期について説明できる。 ③心電図モニターの判断ポイントを説明できる。		【評価について】 評価は筆記試験で行う。病態生理や重症度判定、応急処置に関してだけでなく、その背景となる解剖生理学的知識、生化学的知識についても確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。授業への参加度を加算する場合もある。評価は学則規定に準ずる。				
【特記事項】 できるだけ遅刻や欠席はしないこと。学生の講義への参加度は評価の参考とする。							

科目名 (英)	疾病救急医学 I (Disease Emergency Medicine I)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	大越 一生
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45時間 (3)	開講区分	後期 木曜日 1・2時限
【授業の学習内容と心構え】 消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務に携わってきた教員が、迅速かつ確かな判断及び処置を実施出来る救急救命士を養成するため、現場経験を踏まえた授業を実施する。専門職である救急救命士が個人・チームとして、傷病者のために何が必要であるかを各々が常に考えながら受講してほしい。連続的な内容で授業を実施するため、遅刻や無断欠席は厳に慎むこと。							
【到達目標】 ①救急疾患のなかで重症度・緊急度の高い消化器系疾患、泌尿・生殖器系疾患、代謝・皮膚・筋骨格系疾患について、解剖生理学的・生化学的理解のもとに判断できる。 ②それぞれの疾病について、解剖生理学的・生化学的根拠のもとに必要な処置について考えることができる。 ③消化器系疾患、泌尿・生殖器系疾患、代謝・皮膚・筋骨格系疾患の情報共有で用いる言葉を正確に理解することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・改訂第10版救急救命士標準テキスト ・改定第5版ビジュアルブック				【授業外における学習】 テキスト内の言葉の完全理解を目指すため、事前に言葉の読みと意味を確認しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【授業単元】消化器系疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①緊急度の高い消化器系疾患を4つ挙げることができる。 ②消化器系疾患の主要症候の定義を正しく言える。 ③消化器系疾患で起こりうるショックを2つ挙げ、対応を説明できる。			17・18	【授業単元】血液・免疫系疾患② 筋骨格系疾患① 【授業形態】講義、単元小テスト(血液・免疫系疾患) 【到達目標】 ①重症度の高い薬物アレルギーを2つ挙げ、その症状を説明できる ②筋骨格系の主要症候を挙げ、内臓疾患との鑑別方法を説明できる。 ③体性神経の伝導路を踏まえ、障害と麻痺のパターンを説明できる。		
3・4	【授業単元】消化器系疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①胃・十二指腸潰瘍の原因と主要症候、重症度判定について説明できる。 ②緊急性の高い腸閉塞・イレウスの原因となる疾患を挙げ、対応を説明できる。 ③腹膜炎の原因疾患を3つ挙げ、症状と対応について説明できる。			19・20	【授業単元】筋骨格系疾患② 【授業形態】講義、単元小テスト(筋・骨格系疾患) 【到達目標】 ①椎間板ヘルニアの病態と症状との関係を説明できる。 ②脊柱管の働きを踏まえ、脊柱管狭窄症の病態・症状を説明できる ③化膿性関節炎の症状の特徴を説明することができる。		
5・6	【授業単元】消化器系疾患③ 【授業形態】講義、単元小テスト(消化器系疾患) 【到達目標】 ①ウイルス性肝炎から肝硬変に至る病態を説明できる ②肝硬変の症状を、肝機能の低下と結びつけて説明できる ③急性胆道炎・急性肝炎の症状の特徴を説明できる			21・22	【授業単元】皮膚系疾患 【授業形態】講義、単元小テスト(皮膚系疾患) 【到達目標】 ①皮膚系疾患の主要症候の定義を正しく言える。 ②皮膚観察の基本と留意点を3つ挙げることができる。 ③皮膚系疾患のうち、緊急度の高いものを3つ挙げることができる。		
7・8	【授業単元】泌尿・生殖器系疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①腎小体の模式図を書き、腎機能を説明できる。 ②泌尿・生殖器系疾患の主要症候の定義を正しく言える ③緊急度・重症度の高い泌尿・生殖器系疾患を挙げることができる			23	【授業単元】理解度判定と評価 【授業形態】定期試験 【到達目標】		
9・10	【授業単元】泌尿器・生殖器系疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①急性腎不全を3つに分類し、それぞれの代表疾患を2つ以上いえる。 ②慢性腎不全・慢性腎臓病増加の原因を説明できる。 ③慢性腎不全による症状と血液浄化の効果について説明できる。						
11・12	【授業単元】泌尿・生殖器系疾患③代謝・内分泌・栄養系疾患① 【授業形態】講義、単元小テスト(泌尿器・生殖器系疾患) 【到達目標】 ①尿路結石・尿路感染症の原因と症状を説明できる。 ②緊急性の高い女性生殖器系疾患を1つ挙げ、症状の特徴を説明できる ③緊急性の高い男性生殖器系疾患を1つ挙げ、症状の特徴を説明できる						
13・14	【授業単元】代謝・内分泌・栄養系疾患② 【授業形態】講義、単元小テスト(代謝・内分泌・栄養系疾患) 【到達目標】 ①糖尿病を、血糖調節機構の障害から説明できる。 ②糖尿病の三大合併症と大血管障害を説明できる。 ③ケトアシドーシス・高浸透圧高血糖症候群の病態を説明できる						
15・16	【授業単元】血液・免疫系疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①甲状腺及び副腎皮質ホルモンの働きを踏まえ、その異常を説明できる。 ②血液凝固の仕組みを踏まえ、凝固異常をきたす疾患を説明できる。				【評価について】 小テスト及び定期試験による100点満点の総合評価とする。 但し、遅刻及び欠席を加味し、上記から減点をするものとする。 単元小テスト(選択式): 学年成績の40% 定期試験(選択式及び記述形式): 学年成績の60% 評価方法は学則規定に準ずる。		
【特記事項】							

科目名 (英)	疾病救急医学Ⅱ (Disease Emergency Medicine Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	境野 高資
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 救急医・小児科医として長きに渡り救急医療の臨床と消防の指導医として病院前救護に携わってきた教員により、社会に貢献できる救急救命士を養成するため救急感染症学、小児救急学、新生児救急学、分娩助産と周産期救急医学の専門的な知識と技術を習得するための授業を行う。救急救命士としてあらゆる傷病者・あらゆる疾病へ迅速に対応できるようになるため履修・修了が必須の講義であることを理解し、意欲をもって授業に臨んで欲しい。受講前には救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読し、授業後はしっかりと復習すること。							
【到達目標】 救急救命士として感染症や小児、新生児、妊婦の傷病者に迅速かつ適切に救護行えるようになるための知識と技術を習得する。正常分娩と異常分娩の違いを理解し、適切な分娩助産が施行できるようになるための知識と技術を習得する。病院前での確実な感染対策が実施できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）				【授業外における学習】 講義前に救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読しておくこと。また講義後はしっかりと復習をして知識を確かなものにしておくこと。不明点は休み時間や放課後等を利用して積極的に質問に来ること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【授業単元】 4/18 周産期救急① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.415 - 418, 665 - 672 1年生「病理・微生物学」で習得した「ヒトの発生・成長」の知識を深め、正常妊娠の過程と異常妊娠を理解する。妊婦の解剖・生理を理解する。正常分娩と異常分娩を理解し、妊婦の傷病者に対して適切に対応するための基礎知識を習得する。			15(試験)	【授業単元】 8月1日 【授業形態】 演習 【到達目標】 国家試験方式で実施する定期試験により、第1回～第14回で学んだ妊娠・分娩と周産期救急疾患、感染症、小児疾患・小児救急についての知識を再確認する。		
3・4	【授業単元】 5/16 周産期救急② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.415 - 418, 673 - 675 胎児と出生直後の新生児の解剖・生理学を学び理解する。新生児の救急蘇生法を習得し実践するための基礎知識を得る。妊婦の心肺蘇生について学び実践できるようになる。死戦期帝王切開について理解する。			解説	【授業単元】 9月5日 【授業形態】 講義 【到達目標】 8月1日に施行した定期試験問題の解説を聞き、自身の弱点を把握したうえで復習に努める。		
5・6	【授業単元】 5/30 周産期救急③ 【授業形態】 実習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.415 - 418, 665 - 675 第3～6回で学んだ知識をもとに、プレホスピタルにおける正常分娩の助産と産後大出血および新生児仮死の救急対応を実践する。加えて妊婦の心肺停止に対する蘇生を習得する。						
7・8	【授業単元】 6/6 中間試験 【授業形態】 試験 【到達目標】 国家試験方式で実施する中間試験により、第1回～第8回で学んだ妊娠・分娩と周産期救急疾患、感染症についての知識を再確認する。						
中間試験 解説	【授業単元】 6/20 中間試験の解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 5月24日に施行した中間試験問題の解説を聞き、自身の弱点を把握したうえで復習に努める。						
9・10	【授業単元】 7/4 感染症 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.868 - 880 1年生「病理・微生物学」で習得した「免疫・感染」の知識を深め、感染症に罹患した傷病者対応を安全に実施するための知識・技能を習得する。また代表的な感染症の疫学・病態・生理を把握する。						
11・12	【授業単元】 7/18 小児救急① 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.254, 349-350, 376-383, 644 - 657 小児傷病者の生理学的・解剖学的・心理学的特徴を理解し、初期対応を實踐できるようになる。小児の心肺蘇生や気道異物の対処法を習得する。						
13・14	【授業単元】 8/1 小児救急② 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト P.644 - 657 小児によくみられる各種疾患の病態生理と初期対応を理解する。				【評価方法について】 各講義毎に小テスト実施 または 問題演習課題を課し、中間評価に加える。また出席率、授業態度、宿題やレポート課題等により学年成績に加点または減点を加える。中間試験・期末試験は国家試験方式(マークシート)で実施する。		
【特記事項】 遅刻・欠席はせず、各授業前のテキスト熟読と授業後の復習を行うこと。 曖昧な点があれば、そのままにせず積極的に質問に来ること。							

科目名 (英)	疾病救急医学Ⅱ (Disease Emergency Medicine Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	野村 利明
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 3・4時限
【授業の学習内容と心構え】 消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務・事務に携わり、看護師資格を有する教員が、疾病の緊急度・重症度判定し、適切な救急処置を行う方法を具体的に提示する。眼・耳・鼻疾患の症状は、脳神経疾患の症状と重複する部分が多く、搬送先の選定の適否が傷病者の予後を左右する。また、高齢者や精神障害者は、症状が非定型的で伝達も困難であるため、客観的な情報収集による鑑別が非常に重要になる。講義では、様々な客観的な情報をもとに的確に鑑別し、応急処置および搬送ができるような展開を工夫したい。							
【到達目標】 ①眼・耳・鼻疾患を、症状および解剖生理と病態生理の知識によって脳神経疾患など他疾患と区別できる。 ②高齢者の加齢による変化を踏まえ、主観的情報だけでなく客観的情報をもとに病態を把握できる。 ③精神障害を内因・外因・心因からとらえ、特徴的な症状を理解するとともに、精神症状に応じた基本的な対応が理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 改訂第10版救急救命士標準テキスト その他、補足資料は講義ごとに配布する。				【授業外における学習】 テキスト内の言葉の完全理解をめざすため、事前に言葉の意味を確認しておくこと。1年生のときに用いた生化学や解剖学など、関連する資料を持参すること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】眼・耳・鼻の疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①視覚器の構造と視覚伝導路を絵に描き、説明できる。 ②聴覚器の構造と聴覚伝導路を絵に描き、説明できる。 ③鼻の構造と嗅覚伝導路を絵に描き、説明できる。			9	【授業単元】精神障害① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①精神障害を外因・内因・心因に分けて説明できる。 ②精神障害の主要症候の定義を正しく述べられる。 ③幻覚妄想・昏迷・躁鬱・自殺企図がある人への基本的対応を説明できる		
2	【授業単元】眼・耳・鼻の疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①視力障害・視覚障害の判定方法と原因を説明できる。 ②羞明・毛様充血・結膜充血・瞳孔変形の原因を説明できる。 ③難聴の種類、中枢性めまい・末梢性めまいを説明できる。			10	【授業単元】精神障害② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①統合失調症の病態と主要症候を挙げられる。 ②強制入院の形態と法的根拠を説明できる。 ③気分障害の種類と強制入院の適応を説明できる。		
3	【授業単元】眼・耳・鼻の疾患③ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①急性緑内障の病態と症候を説明できる。 ②網膜中心動脈閉塞症の基礎疾患と症候を説明できる。 ③網膜剝離の視野狭窄の特徴を説明できる。			11	【授業単元】精神障害③ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①精神障害を引き起こす器質性疾患を3つ挙げることができる。 ②アルコールによる身体的・心理的・社会的悪影響を説明できる。 ③アルコール離脱症状の経過を説明できる。		
4	【授業単元】眼・耳・鼻の疾患④ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①末梢性めまいを生じる疾患を2つ挙げ、病態と症状を説明できる。 ②大量鼻出血の原因となる疾患について説明できる。 ③急性副鼻腔炎の症候を説明できる。			12	【授業単元】精神障害④ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①覚せい剤・危険ドラッグによる症状を説明できる。 ②パニック障害が形成されるメカニズムを説明できる。		
5	【授業単元】高齢者に特有な疾患① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①加齢に伴う水分量、感覚閾値の変化について例を挙げて説明できる。 ②加齢に伴う精神機能の変化について例を挙げて説明できる。 ③加齢による予備能力の低下について例を挙げて説明できる。			13	【授業単元】精神障害⑤ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①PTSD発症のメカニズムと症状・対応を説明できる。 ②解離性障害のメカニズムと身体疾患の症状との違いを説明できる ③摂食障害のメカニズムと症候を説明できる。		
6	【授業単元】高齢者に特有な疾患② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①高齢者の症状が非典型的である根拠を説明できる。 ②高齢者の情報収集原として重要なものを3つ以上説明することができる ③高齢者に起こりやすい呼吸器疾患とその症状を説明できる。			14	【授業単元】精神障害⑥ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①救急現場で接することの多いパーソナリティ障害を挙げることができる。 ②広汎性発達障害の分類を2つ挙げ、特徴を説明できる。 ③抗精神病薬の副作用を2つ挙げ、説明することができる。		
7	【授業単元】高齢者に特有な疾患③ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①意識障害と脱水・体温異常・脳血管疾患との関係を説明できる。 ②胸部違和感と虚血性心疾患との関係を説明できる。 ③腰部部痛と転移性骨腫瘍・腎盂腎炎・大動脈疾患との関係を説明できる			15	【授業単元】理解度判定と評価 【授業形態】 【到達目標】 定期試験、解答解説		
8	【授業単元】高齢者に特有な疾患④ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①緊急度・重症度を判断するうえでのポイントを3つ挙げることができる ②認知症の進行度と症状との関係、対応上の注意を説明できる。 ③虐待・誤嚥性肺炎・廃用症候群が発生する原因を説明できる。			【評価について】 評価は筆記試験で行う。病態生理や重症度判定、応急処置に関してだけでなく、その背景となる解剖生理学的知識、生化学的知識についても確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。授業への参加度を加算する場合もある。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 できるだけ遅刻や欠席はしないこと。学生の講義への参加度は評価の参考とする。							

科目名 (英)	外傷各論 (External Wound General Exposition)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	境野 高資 / 大越 一生
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	45時間 (3)	開講区分	後期
						曜日・時間	火曜日 3・4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 救急医・小児科医として長きに渡り救急医療の臨床に携わってきた教員と消防官・救急救命士として長きに渡り地域の救急医療に取り組んできた常任教員により、社会に貢献できる救急救命士を養成するため外傷学の専門的な知識と技術を得るための授業を行う。救急救命士としてあらゆる外傷傷病者へ迅速に対応できるようにするため、外傷総論で学んだ内容を細部まで履修していく。必須の講義であることを理解し、意欲をもって授業に臨んで欲しい。受講前には救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読し、授業後はしっかりと復習すること。							
【到達目標】 外傷総論・外傷各論Ⅰで学んだ外傷学の基礎を、その各分野について詳細に学び外傷救護の活動に役立てる。外傷傷病者を救うために必要な知識・技術を身につける。救急救命士国家試験の約20-30%を占める外傷分野を得意にして得点源とする。							
【使用教科書・教材・参考書】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト (へるす出版)				【授業外における学習】 講義前に救急救命士標準テキストの該当部分を必ず熟読しておくこと。また講義後はしっかりと復習をして知識を確実なものにしておくこと。不明点は休み時間や放課後等を利用して積極的に質問に来ること。			
回	授業概要			回	授業概要		
1・2	【授業単元】(9/5) 骨盤外傷(境野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.743 - 745 骨盤について解剖学、生理学を復習し、外傷を理解する。同部位の外傷に対する適切な初期救護を実践できるようにする。多発外傷の定義と対応を理解し実践できるようになる。			14・15	【授業単元】(11/7) 化学損傷(大越) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.766 - 771 化学損傷の病態生理を理解し、除染・ゾーニングや傷病者に対する適切な病院前救護が実践できる。		
3・4	【授業単元】(9/19) 四肢外傷・多発外傷(境野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.747-754 四肢について解剖学、生理学を復習し、外傷を理解する。同部位の外傷に対する適切な初期救護を実践できるようにする。多発外傷の定義と対応を理解し実践できるようになる。			16・17	【授業単元】(11/14) 電撃傷・雷撃傷(境野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.772 - 777 電撃傷・雷撃傷について理解し適切な病院前救護を実践できるようにする。		
5・6	【授業単元】(9/26) 小児外傷、事故予防、被虐待児症候群(大越) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.755 - 757, 655 - 657 小児外傷の特徴を理解し適切な現場救護が実践できる。具体的な事故予防を行うことができる。疾病救急医学Ⅱで学んだ被虐待児症候群について復習する。			18・19	【授業単元】(11/21) 刺咬症(大越) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.781 - 786 刺咬症に対する初期対応を理解し実践できるようにする。		
7・8	【授業単元】(10/3) 妊婦外傷(境野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.759, 665-675 妊婦の解剖学的・生理学的な特性を理解し、それらの損傷に対して適切な病院前救護を実践できる。疾病救急医学Ⅱで学んだ妊娠・分娩と救急疾患や妊婦に対する心肺蘇生について復習する。			20・21	【授業単元】(11/28) スポーツ外傷、外傷に関連した感染症(大越) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.701, 643 スポーツ外傷の発生機序と病態を理解し初期救護を実践できる。疾病救急医学Ⅱで学んだ破傷風・ガス壊疽の病態について復習し初期救護を実践できるようにする。		
9・10	【授業単元】(10/10) 高齢者外傷(大越) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.757 - 759, 658 - 664 高齢者の解剖学的・生理学的な特性を理解し、それらの損傷に対して適切な病院前救護を実践できる。			22・23	【授業単元】(12/5) 異物・窒息(境野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.348-350, 808 - 811 様々な異物の病態を理解し、状況に応じた適切な病院前救護が実践できる。窒息に対する初期対応が実施できる。		
11・12	【授業単元】(10/17) 熱傷(境野) 【授業形態】講義・演習 【到達目標】改訂第10班 救急救命士標準テキスト P.760 - 765 熱傷の病態生理を理解し、熱傷面積の算出方法を知る。熱傷の傷病者に対する適切な病院前救護が実践できる。			期末試験	【授業単元】(12/12) 定期試験(大越) 【授業形態】演習 【到達目標】 期末テストにより外傷学における自身の弱点部分を把握し、補完することで知識をより確実なものとする。		
13 中間試験	【授業単元】(10/24) 中間試験(大越) 【授業形態】演習 【到達目標】外傷総論、外傷各論(1~12回) 国家試験方式で実施する中間試験により、第1回～第9回で学んだ外傷各論についての知識を再確認する。なお試験範囲には外傷総論・JPTEC e-learning・外傷各論の全範囲を含める。			期末試験 解説	【授業単元】(12/19) 定期試験の解説(境野) 【授業形態】講義 【到達目標】 定期試験の解説を行う。外傷学における自身の弱点部分を把握し、補完することで知識をより確実なものとする。		
中間試験 解説	【授業単元】(10/31) 中間試験の解説(境野) 【授業形態】講義 【到達目標】 中間試験の解説を行い、外傷学の復習を行うとともに弱点の補強に努める。			【評価方法について】 出席率、授業態度、小テスト、宿題やレポート課題等により、学年成績の20%、中間試験により学戦成績の20%を評価し、これらを合算して中間評価(40%)とする。定期試験により学年成績の60%を評価する。			
【特記事項】 遅刻・欠席はせず、各授業前のテキスト熟読と授業後の復習を行うこと。曖昧な点があれば、そのままにせず積極的に質問に来ること。							

科目名 (英)	環境障害・中毒 (Insult and Poisoning Study)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	野村 利明
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日 3・4時限
【授業の学習内容と心構え】 消防機関における消防・救急業務において、救急救命士として実務・事務に携わり、看護師資格を有する教員が、様々な環境による障害や救急現場で遭遇する可能性のある中毒物質に対して、迅速かつ的確な判断及び処置を実施出来る救急救命士を養成するため、現場経験を踏まえた授業を実施する。専門職である救急救命士が個人・チームとして、傷病者のために何が必要であるかを各々が常に考えながら、受講してほしい。							
【到達目標】 環境障害では、身体に影響を及ぼす様々な環境を把握すると共に、その発生機序～安全管理を含む対応までを理解し、説明できる。 中毒学では、身体に影響を及ぼす様々な環境を把握すると共に、その作用機序～安全管理を含む対応までを理解し、説明できる。 シミュレーション実習と直結することを理解しつつ、現場活動と関連付けながら考えることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 改訂第10版 救急救命士標準テキスト				【授業外における学習】 テキスト該当範囲における不明な語句、文章及び資料は予め調べて授業に臨むこと。また、各小テストの復習を都度と行うこと。			
回	授業概要			回	授業概要		
1, 2	【授業単元】 中毒総論 【授業形態】 講義、小テスト 【到達目標】 中毒学の全体像を把握し、説明できる。						
3, 4	【授業単元】 中毒各論 【授業形態】 講義、小テスト 【到達目標】 救急現場で遭遇し易い中毒物質を理解し、説明できる。						
5, 6	【授業単元】 異物 【授業形態】 講義、小テスト 【到達目標】 各種異物の特徴、判断及び処置を理解し、説明できる。						
7, 8	【授業単元】 溺水 【授業形態】 講義、小テスト 【到達目標】 溺水の分類、機序、判断及び処置を理解し、説明できる。						
9, 10	【授業単元】 熱中症 【授業形態】 講義、小テスト 【到達目標】 熱中症の分類、機序、判断及び処置を理解し、説明できる。						
11, 12	【授業単元】 偶発性低体温症 【授業形態】 講義、小テスト 【到達目標】 偶発性低体温症の分類、機序、判断及び処置を理解し、説明できる。						
13, 14	【授業単元】 放射線障害、その他環境障害 【授業形態】 講義、小テスト 【到達目標】 放射線障害、高山病、減圧障害、酸素欠乏症、凍傷、紫外線障害について、それぞれの分類、機序、判断及び処置を理解し、説明できる。						
15	【授業単元】 問題演習、定期試験 【授業形態】 演習、試験 【到達目標】 マーク試験では国家試験レベルの問題を理解し、適度な速さで解答を導くことができる。 記述試験では学んだ知識を文章、表及び図などを用いて読み手に分かりやすく、表現できる。			【評価について】 小テスト、中間試験、定期試験で100点満点の総合評価とする。但し、遅刻及び欠席を加味し、上記から減点を行うものとする。 小テスト 中間試験(国家試験形式) 定期試験(国家試験形式)			
【特記事項】				評価方法は学則規定に準ずる。			

科目名 (英)	総合救急医療 I (Preparation for The National Examination I)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	渥美 栄一
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 1・2時限
【授業の学習内容と心構え】 消防機関において救急現場に携わってきた教員が、疾病・傷病の緊急度・重症度判定し、適切な救急処置を行うための考え方を具体的かつ総合的に提示したい。その際、ミクロな視点としての生化学的知識を重視し、救急処置の背景・エビデンスについても意識づけたい。また、マクロな視点として、救命士の活動を支える救急医療体制や社会保障制度についても触れ、学生が救命士の社会的な役割を実感できるような講義にしたい。							
【到達目標】 ①傷病者の症状や重症度・緊急度を、病態生理学・生化学的な知識をもとに説明することができる。 ②正解の根拠、不正解の根拠ともに説明することができる。 ③テキストや参考書の使い方、反復学習の仕方を得習し、自己学習を習慣化できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士国家試験対策 出題分野別国試問題・解説集 A・B問題編				【授業外における学習】 問題に用いられている言葉の完全理解をめざすため、事前に言葉の意味を確認しておくこと。1年生のときに用いた生化学や解剖学など、関連する資料を持参すること。			
回	授業概要			回	授業概要		
1・2	【授業単元】人体の構造と機能① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①体液の組成を説明できる。 ②末梢神経の種類と神経伝達物質、中枢、効果器の関係を説明できる。 ③中枢神経(大脳・間脳・脳幹・小脳・脊髄)の役割を説明できる。			17・18	【授業単元】救急症候学② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①錐体路と麻痺との関係を説明できる。 ②めまいの性質から中枢性か末梢性かを分けることができる。 ③呼吸困難の特徴と病変部位(上気道・下気道)を結び付けることができる		
3・4	【授業単元】人体の構造と機能② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①視覚器・聴覚器を絵に描き、構造を説明できる。 ②気管挿管・気管切開に必要な呼吸器の構造を説明できる。 ③酸素解離曲線について説明できる。			19・20	【授業単元】救急症候学③ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①血圧調節のメカニズムと失神との関係を説明できる。 ②動悸と不整脈との関係を説明できる。 ③腹痛(体性痛・内臓痛)の性質と代表疾患を説明できる。		
5・6	【授業単元】人体の構造と機能③ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①心音と音の成分について説明できる。 ②肝臓と膵臓の機能について説明できる。 ③糖質代謝と脂質代謝について、ホルモンの働きを含め説明できる。			21・22	【授業単元】疾病救急医学① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①頭蓋内出血の部位と症状との対応関係を説明できる。 ②髄膜炎の症状を説明できる。 ③代表的な上気道疾患と下気道疾患を挙げ、症状との関係を説明できる		
7・8	【授業単元】疾病の成り立ちと回復の促進① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①感染経路別に代表的な感染源を挙げることができる。 ②感染経路別の対策について説明できる。 ③代表的な感染症の感染症類型を示すことができる。			23・24	【授業単元】疾病救急医学② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①虚血性疾患でみられる不整脈の特徴を説明できる。 ②致死性不整脈の種類と波形を図示して説明できる。 ③動脈血栓症と静脈血栓症の発症要因と症状の違いを説明できる。		
9・10	【授業単元】疾病の成り立ちと回復の促進② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①高張性・低張性脱水の特徴と、分泌されるホルモンの関係を説明できる ②創傷治癒過程について説明できる。 ③染色体異常について説明できる。			25・26	【授業単元】疾病救急医学③ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①緊急度の高い消化器疾患を挙げることができる。 ②消化性潰瘍・肺炎を消化酵素との関係から説明できる。 ③尿管結石の発生部位と症状との関係を説明できる。		
11・12	【授業単元】救急病態生理学① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①呼吸不全の種類を3つ挙げ、代表的な原因を対応させることができる。 ②心不全の症状と緊急度の判断について説明できる。 ③ショックを4つに分類し、病態と症状、対応について説明できる。			27・28	【授業単元】疾病救急医学④ 【授業形態】講義 【到達目標】 ①I型アレルギーのメカニズムを踏まえ、アナフィラキシーショックを説明できる。 ②食中毒の原因菌の生息域・潜伏期について説明できる。 ③高齢者の身体的な特徴と疾病との関係を説明できる。		
13・14	【授業単元】救急病態生理学② 【授業形態】講義 【到達目標】 ①頭蓋内圧亢進の徴候および悪化させる要因について説明できる。 ②心肺停止による臓器障害について説明できる。 ③心肺蘇生による臓器血流とその効果について説明できる。			29・30	【授業単元】模試の振り返り 【授業形態】 【到達目標】 ①苦手な領域を意識づけることができる。 ②正しい答えと考え方を記録し、反復できる。		
15・16	【授業単元】救急症候学① 【授業形態】講義 【到達目標】 ①意識障害の原因(脳神経or代謝性疾患)による症状の違いを説明できる。 ②頭痛の原因による症状の違いを説明できる。 ③重症度の高い痙攣について説明できる。			【評価について】 中間試験(40点)と定期試験・国家試験模試(60点換算)の合計100点満点で評価する。授業への参加度を加算する場合もある。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 できるだけ遅刻や欠席はしないこと。学生の講義への参加度は評価の参考とする。							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅱ (SimulationⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	安齋勝人・大越一生
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	180時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を習得する授業を行う。想定を自ら作製することで病態を理解し、現場に近い状況を実習する。救急現場で一人で行えることは限られていることを理解し、就職時にチームの一人として活躍するスキルを身に付けて欲しい。実習がメインの授業で多くの観察・処置を自習する。現場では同じ症例はない。そのため遅刻、欠席せず、すべてのアドバイスを貪欲に学んで欲しい。							
【到達目標】 知識に基づく観察からの確かな判断で救急救命士に必要な技術を習得する。解剖生理を理解し観察結果と病態を臨床推論することができる。救急チームとして仲間と連携し、個人のスキルを上げ活動時間の短縮をはかる。実施する観察と手技はただ覚えるのではなく、意味を理解し効果を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト(上下巻) 改訂2版JPTECガイドブック授業時に配付する資料				【授業外における学習】 1年次に学んだ知識と技術を復習しておくこと。 授業終了後は学んだ技術を次回に活用できるように復習する。 実技で行った観察と標準テキストの内容を確認しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 シナリオを完成させる。 自隊で想定を実施しシナリオを完成させる。			9	【授業単元】 内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 シナリオを完成させる。 自隊で想定を実施しシナリオを完成させる。		
2	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			10	【授業単元】 内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
3	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			11	【授業単元】 内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
4	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			12	【授業単元】 内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
5	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			13	【授業単元】 内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
6	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			14	【授業単元】 内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
7	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			15	【授業単元】 内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
8	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			【評価について】 前期試験として効果測定(実技試験)を実施する。 静脈路確保、薬剤投与を習得しているか確認する。			
【特記事項】 3年生対象外傷コース(JPTEC)が開催される場合は、外因性を先行するシラバスへ変更する。その際、2年生は半数に分かれ1日を授業としてタスク参加する。							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅱ (SimulationⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	安齋勝人・大越一生
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	180時間 (4)	開講区分	前期
学科・専攻	救急救命士科					曜日・時間	水曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を習得する授業を行う。想定を自ら作製することで病態を理解し、現場に近い状況を実習する。 救急現場で一人で行えることは限られていることを理解し、就職時にチームの一人として活躍するスキルを身につけて欲しい。実習がメインの授業で多くの観察・処置を自習する。現場では同じ症例はない。そのため遅刻、欠席せず、すべてのアドバイスを貪欲に学んで欲しい。							
【到達目標】 知識に基づく観察からの確かな判断で救急救命士に必要な技術を習得する。 解剖生理を理解し観察結果と病態を臨床推論することができる。 救急チームとして仲間と連携し、個人のスキルを上げ活動時間の短縮をはかる。 実施する観察と手技はただ覚えるのではなく、意味を理解し効果を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト(上下巻) 改訂2版JPTECガイドブック授業時に 配付する資料				【授業外における学習】 1年次に学んだ知識と技術を復習しておくこと。 授業終了後は学んだ技術を次回に活用できるように復習する。 実技で行った観察と標準テキストの内容を確認しておくこと。			
回	授業概要			回	授業概要		
16	【授業単元】内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			24	【授業単元】内因性対応(総合) 【授業形態】演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
17	【授業単元】病院連絡 【授業形態】演習 【到達目標】 観察結果をMISTに乗っ取りわかりやすく報告するスキルを身につける。			25	【授業単元】内因性対応(総合) 【授業形態】演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
18	【授業単元】病院連絡 【授業形態】演習 【到達目標】 観察結果をMISTに乗っ取りわかりやすく報告するスキルを身につける。			26	【授業単元】内因性対応(総合) 【授業形態】演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
19	【授業単元】病院連絡 【授業形態】演習 【到達目標】 観察結果をMISTに乗っ取りわかりやすく報告するスキルを身につける。			27	【授業単元】内因性対応(総合) 【授業形態】演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
20	【授業単元】病院連絡 【授業形態】演習 【到達目標】 観察結果をMISTに乗っ取りわかりやすく報告するスキルを身につける。			28	【授業単元】内因性対応(総合) 【授業形態】演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
21	【授業単元】内因性対応(総合) 【授業形態】演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			29	【授業単元】内因性対応(総合) 【授業形態】演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
22	【授業単元】内因性対応(総合) 【授業形態】演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			30	【授業単元】内因性対応(総合) 【授業形態】演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
23	【授業単元】内因性対応(総合) 【授業形態】演習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			【評価について】 前期試験として効果測定(実技試験)を実施する。 静脈路確保、薬剤投与を習得しているか確認する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅱ (Simulation II)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	安齋勝人・大越一生
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	180時間 (4)	開講区分	前期
						曜日・時間	水曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を習得する授業を行う。想定を自ら作製することで病態を理解し、現場に近い状況を実習する。 救急現場で一人で行えることは限られていることを理解し、就職時にチームの一人として活躍するスキルを身に付けて欲しい。実習がメインの授業で多くの観察・処置を自習する。現場では同じ症例はない。そのため遅刻、欠席せず、すべてのアドバイスを貪欲に学んで欲しい。							
【到達目標】 知識に基づく観察からの確かな判断で救急救命士に必要な技術を習得する。 解剖生理を理解し観察結果と病態を臨床推論することができる。 救急チームとして仲間と連携し、個人のスキルを上げ活動時間の短縮をはかる。 実施する観察と手技はただ覚えるのではなく、意味を理解し効果を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト(上下巻) 改訂2版JPTECガイドブック授業時に 配付する資料				【授業外における学習】 1年次に学んだ知識と技術を復習しておくこと。 授業終了後は学んだ技術を次回に活用できるように復習する。 実技で行った観察と標準テキストの内容を確認しておくこと。			
回	授業概要			回	授業概要		
31	【授業単元】 集団災害 【授業形態】 講義 【到達目標】 集団災害の定義を理解し、必要な行動を実施することができる。			39	【授業単元】 内因性疾患(総合) 【授業形態】 演習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。		
32	【授業単元】 集団災害 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 集団災害の定義を理解し、必要な行動を実施することができる。			40	【授業単元】 内因性疾患(循環器系疾患) 【授業形態】 演習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。		
33	【授業単元】 集団災害 【授業形態】 講義 【到達目標】 トリアージのための判定法を理解し実施することが出来る。 START法とPAT法。			41	【授業単元】 効果測定 【授業形態】 演習 【到達目標】 心肺蘇生法(胸骨圧迫)		
34	【授業単元】 集団災害 【授業形態】 演習 【到達目標】 トリアージタグの記載とマストリアージの実践。			42	【授業単元】 効果測定 【授業形態】 演習 【到達目標】 心肺蘇生法(胸骨圧迫)		
35	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 演習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			43	【授業単元】 特定行為 【授業形態】 演習 【到達目標】 気道確保、静脈路確保が適切な時間内に実施できる。		
36	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 演習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			44	【授業単元】 特定行為 【授業形態】 演習 【到達目標】 気道確保、静脈路確保が適切な時間内に実施できる。		
37	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 演習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			45	【授業単元】 特定行為 【授業形態】 演習 【到達目標】 気道確保、静脈路確保が適切な時間内に実施できる。		
38	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 演習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			【評価について】 前期試験として効果測定(蘇生技術)を実施する。 Q-CPRを使用し胸骨圧迫の質を測定する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	シミュレーション実習 II (Simulation II)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	安齋勝人・大越一生
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	180時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を習得する授業を行う。想定を自ら作製することで病態を理解し、現場に近い状況を実習する。 救急現場で一人でできることは限られていることを理解し、就職時にチームの一人として活躍するスキルを身につけて欲しい。実習がメインの授業で多くの観察・処置を自習する。現場では同じ症例はない。そのため遅刻、欠席せず、すべてのアドバイスを貪欲に学んで欲しい。							
【到達目標】 知識に基づく観察からの確かな判断で救急救命士に必要な技術を習得する。 解剖生理を理解し観察結果と病態を臨床推論することができる。 救急チームとして仲間と連携し、個人のスキルを上げ活動時間の短縮をはかる。 実施する観察と手技はただ覚えるのではなく、意味を理解し効果を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト(上下巻) 改訂2版JPTECガイドブック授業時に 配付する資料				【授業外における学習】 1年次に学んだ知識と技術を復習しておくこと。 授業終了後は学んだ技術を次回に活用できるように復習する。 実技で行った観察と標準テキストの内容を確認しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
46	【授業単元】 特定行為 【授業形態】 演習 【到達目標】 気道確保、静脈路確保が適切な時間内に実施できる。			54	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。		
47	【授業単元】 拡大二処置 【授業形態】 講義 【到達目標】 拡大二処置を理解する。			55	【授業単元】 外傷対応 【授業形態】 演習 【到達目標】 初期評価を理解し実施することができる。		
48	【授業単元】 拡大二処置 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 拡大二処置を理解する。			56	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。		
49	【授業単元】 拡大二処置 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 拡大二処置を理解する。			57	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。		
50	【授業単元】 拡大二処置 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 拡大二処置のシナリオ訓練			58	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。		
51	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。			59	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。		
52	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。			60	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。		
53	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。			【評価について】 後期試験として静脈路確保からブドウ糖投与までの手技を確認する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅱ (SimulationⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	安齋勝人・大越一生
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	180時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を習得する授業を行う。想定を自ら作製することで病態を理解し、現場に近い状況を実習する。救急現場で一人でできることは限られていることを理解し、就職時にチームの一人として活躍するスキルを身に付けて欲しい。実習がメインの授業で多くの観察・処置を自習する。現場では同じ症例はない。そのため遅刻、欠席せず、すべてのアドバイスを貪欲に学んで欲しい。							
【到達目標】 知識に基づく観察からの確かな判断で救急救命士に必要な技術を習得する。 解剖生理を理解し観察結果と病態を臨床推論することができる。 救急チームとして仲間と連携し、個人のスキルを上げ活動時間の短縮をはかる。 実施する観察と手技はただ覚えるのではなく、意味を理解し効果を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト(上下巻) 改訂2版JPTECガイドブック授業時に 配付する資料				【授業外における学習】 1年次に学んだ知識と技術を復習しておくこと。 授業終了後は学んだ技術を次回に活用できるように復習する。 実技で行った観察と標準テキストの内容を確認しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
61	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。			69	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。		
62	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。			70	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班に別れ活動とフィードバックを実施する。		
63	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。			71	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班に別れ活動とフィードバックを実施する。		
64	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。			72	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班に別れ活動とフィードバックを実施する。		
65	【授業単元】 効果測定 【授業形態】 演習 【到達目標】 拡大2処置			73	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班に別れ活動とフィードバックを実施する。		
66	【授業単元】 効果測定 【授業形態】 演習 【到達目標】 拡大2処置			74	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班に別れ活動とフィードバックを実施する。		
67	【授業単元】 効果測定 【授業形態】 演習 【到達目標】 拡大2処置			75	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 実施班と想定班に別れ活動とフィードバックを実施する。		
68	【授業単元】 効果測定 【授業形態】 演習 【到達目標】 拡大2処置			【評価について】 後期試験として拡大2処置を実施する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅱ (Simulation II)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	安齋勝人・大越一生
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	180時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を習得する授業を行う。想定を自ら作製することで病態を理解し、現場に近い状況を実習する。 救急現場で一人でできることは限られていることを理解し、就職時にチームの一人として活躍するスキルを身に付けて欲しい。実習がメインの授業で多くの観察・処置を自習する。現場では同じ症例はない。そのため遅刻、欠席せず、すべてのアドバイスを貪欲に学んで欲しい。							
【到達目標】 知識に基づく観察からの確かな判断で救急救命士に必要な技術を習得する。 解剖生理を理解し観察結果と病態を臨床推論することができる。 救急チームとして仲間と連携し、個人のスキルを上げ活動時間の短縮をはかる。 実施する観察と手技はただ覚えるのではなく、意味を理解し効果を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト(上下巻) 改訂2版JPTECガイドブック授業時に 配付する資料				【授業外における学習】 1年次に学んだ知識と技術を復習しておくこと。 授業終了後は学んだ技術を次回に活用できるように復習する。 実技で行った観察と標準テキストの内容を確認しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
76	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			84	【授業単元】 周産期 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 周産期の仕組みを理解し分娩に対応することができる。		
77	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			85	【授業単元】 周産期 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 周産期の仕組みを理解し分娩に対応することができる。		
78	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			86	【授業単元】 周産期 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 周産期の仕組みを理解し分娩に対応することができる。		
79	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			87	【授業単元】 デモンストレーション 【授業形態】 演習 【到達目標】 1年間の成果を発表する。		
80	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			88	【授業単元】 デモンストレーション 【授業形態】 演習 【到達目標】 1年間の成果を発表する。		
81	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			89	【授業単元】 資機材整備 【授業形態】 演習 【到達目標】 1年間使用した資機材の点検整備		
82	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 演習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			90	【授業単元】 資機材整備 【授業形態】 演習 【到達目標】 1年間使用した資機材の点検整備		
83	【授業単元】 周産期 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 周産期の仕組みを理解し分娩に対応することができる。			【評価について】 後期試験として拡大2処置の実技試験を行う。			
【特記事項】							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅱ (SimulationⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	安齋 勝人・渥美 栄一 大越 一生
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	180時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日3~4時限・水曜日1~4時限
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を得るための授業を行う。想定を自ら作製することで病態を理解し、現場に近い状況を実習する。 救急現場で一人でできることは限られていることを理解し、就職時にチームの一人として活躍するスキルを身に付けて欲しい。実習がメインの授業で多くの観察・処置を自習する。現場では同じ症例はない。そのため遅刻、欠席せず、すべてのアドバイスを貪欲に学んで欲しい。							
【到達目標】 知識に基づく観察からの確かな判断で救急救命士に必要な技術を得得する。 解剖生理を理解し観察結果と病態を臨床推論することができる。 救急チームとして仲間と連携し、個人のスキルを上げ活動時間の短縮をはかる。 実施する観察と手技はただ覚えるのではなく、意味を理解し効果を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト(上下巻) 改訂2版JPTECガイドブック授業時に 付する資料				【授業外における学習】 1年次に学んだ知識と技術を復習しておくこと。 授業終了後は学んだ技術を次回に活用できるように復習する。 実技で行った観察と標準テキストの内容を確認しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオを完成させる。 自隊で想定を実施しシナリオを完成させる。			9	【授業単元】 内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオを完成させる。 自隊で想定を実施しシナリオを完成させる。		
2	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			10	【授業単元】 内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
3	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			11	【授業単元】 内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
4	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			12	【授業単元】 内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
5	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			13	【授業単元】 内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
6	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			14	【授業単元】 内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
7	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			15	【授業単元】 内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
8	【授業単元】 内因性対応(呼吸器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			【評価について】 後期試験として拡大2処置の実技試験を行う。			
【特記事項】 3年生対象外傷コース(JPTEC)が開催される場合は、外因性を先行するシラバスへ変更する。その際、2年生は半数に分かれ1日を授業としてタスク参加する。							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅱ (SimulationⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	安齋 勝人・渥美 栄一 大越 一生
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	180時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日3～4時限・水曜日1～4時限
学科・専攻	救急救命士科						
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を習得する授業を行う。想定を自ら作製することで病態を理解し、現場に近い状況を実習する。 救急現場で一人で行えることは限られていることを理解し、就職時にチームの一人として活躍するスキルを身につけて欲しい。実習がメインの授業で多くの観察・処置を自習する。現場では同じ症例はない。そのため遅刻、欠席せず、すべてのアドバイスを貪欲に学んで欲しい。							
【到達目標】 知識に基づく観察からの確かな判断で救急救命士に必要な技術を習得する。 解剖生理を理解し観察結果と病態を臨床推論することができる。 救急チームとして仲間と連携し、個人のスキルを上げ活動時間の短縮をはかる。 実施する観察と手技はただ覚えるのではなく、意味を理解し効果を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト(上下巻) 改訂2版JPTECガイドブック授業時に 配付する資料				【授業外における学習】 1年次に学んだ知識と技術を復習しておくこと。 授業終了後は学んだ技術を次回に活用できるように復習する。 実技で行った観察と標準テキストの内容を確認しておくこと。			
回	授業概要			回	授業概要		
16	【授業単元】 内因性対応(消化器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			24	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
17	【授業単元】 病院連絡 【授業形態】 実習 【到達目標】 観察結果をMISTIに乗っ取りわかりやすく報告するスキルを身につける。			25	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
18	【授業単元】 病院連絡 【授業形態】 実習 【到達目標】 観察結果をMISTIに乗っ取りわかりやすく報告するスキルを身につける。			26	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
19	【授業単元】 病院連絡 【授業形態】 実習 【到達目標】 観察結果をMISTIに乗っ取りわかりやすく報告するスキルを身につける。			27	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
20	【授業単元】 病院連絡 【授業形態】 実習 【到達目標】 観察結果をMISTIに乗っ取りわかりやすく報告するスキルを身につける。			28	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
21	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			29	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
22	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			30	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。		
23	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 実習 【到達目標】 お互いに想定を付与しシナリオを実施する。フィードバックでは必ず意見をし、お互いに病態を理解する。			【評価について】 後期試験として拡大2処置の実技試験を行う。			
【特記事項】							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅱ (SimulationⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	安齋 勝人・渥美 栄一 大越 一生
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	180時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日3～4時限・水曜日1～4時限
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を習得する授業を行う。想定を自ら作製することで病態を理解し、現場に近い状況を実習する。救急現場で一人でできることは限られていることを理解し、就職時にチームの一人として活躍するスキルを身に付けて欲しい。実習がメインの授業で多くの観察・処置を自習する。現場では同じ症例はない。そのため遅刻、欠席せず、すべてのアドバイスを貪欲に学んで欲しい。							
【到達目標】 知識に基づく観察からの確かな判断で救急救命士に必要な技術を習得する。解剖生理を理解し観察結果と病態を臨床推論することができる。救急チームとして仲間と連携し、個人のスキルを上げ活動時間の短縮をはかる。実施する観察と手技はただ覚えるのではなく、意味を理解し効果を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト(上下巻) 改訂2版JPTECガイドブック授業時に 配付する資料				【授業外における学習】 1年次に学んだ知識と技術を復習しておくこと。 授業終了後は学んだ技術を次回に活用できるように復習する。 実技で行った観察と標準テキストの内容を確認しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
31	【授業単元】 集団災害 【授業形態】 実習 【到達目標】 集団災害の定義を理解し、必要な行動を実施することができる。			39	【授業単元】 内因性疾患(総合) 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。		
32	【授業単元】 集団災害 【授業形態】 実習 【到達目標】 集団災害の定義を理解し、必要な行動を実施することができる。			40	【授業単元】 内因性疾患(循環器系疾患) 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。		
33	【授業単元】 集団災害 【授業形態】 実習 【到達目標】 トリアージのための判定法を理解し実施することが出来る。START法とPAT法。			41	【授業単元】 効果測定 【授業形態】 実習 【到達目標】 心肺蘇生法(胸骨圧迫)		
34	【授業単元】 集団災害 【授業形態】 実習 【到達目標】 トリアージタグの記載とマストリアージの実践。			42	【授業単元】 効果測定 【授業形態】 実習 【到達目標】 心肺蘇生法(胸骨圧迫)		
35	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			43	【授業単元】 特定行為 【授業形態】 実習 【到達目標】 気道確保、静脈路確保が適切な時間内に実施できる。		
36	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			44	【授業単元】 特定行為 【授業形態】 実習 【到達目標】 気道確保、静脈路確保が適切な時間内に実施できる。		
37	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			45	【授業単元】 特定行為 【授業形態】 実習 【到達目標】 気道確保、静脈路確保が適切な時間内に実施できる。		
38	【授業単元】 内因性対応(総合) 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			【評価について】 後期試験として拡大2処置の実技試験を行う。			
【特記事項】							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅱ (SimulationⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	安齋 勝人・渥美 栄一 大越 一生
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	180時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日3～4時限・水曜日1～4時限
学科・専攻	救急救命士科						
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を得る授業を行う。想定を自ら作製することで病態を理解し、現場に近い状況を実習する。 救急現場で一人でできることは限られていることを理解し、就職時にチームの一人として活躍するスキルを身につけて欲しい。実習がメインの授業で多くの観察・処置を自習する。現場では同じ症例はない。そのため遅刻、欠席せず、すべてのアドバイスを貪欲に学んで欲しい。							
【到達目標】 知識に基づく観察からの確かな判断で救急救命士に必要な技術を得る。 解剖生理を理解し観察結果と病態を臨床推論することができる。 救急チームとして仲間と連携し、個人のスキルを上げ活動時間の短縮をはかる。 実施する観察と手技はただ覚えるのではなく、意味を理解し効果を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト(上下巻) 改訂2版JPTECガイドブック授業時に 配付する資料				【授業外における学習】 1年次に学んだ知識と技術を復習しておくこと。 授業終了後は学んだ技術を次回に活用できるように復習する。 実技で行った観察と標準テキストの内容を確認しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
46	【授業単元】 特定行為 【授業形態】 実習 【到達目標】 気道確保、静脈路確保が適切な時間内に実施できる。			54	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。		
47	【授業単元】 拡大二処置 【授業形態】 実習 【到達目標】 拡大二処置を理解する。			55	【授業単元】 外傷対応 【授業形態】 実習 【到達目標】 初期評価を理解し実施することができる。		
48	【授業単元】 拡大二処置 【授業形態】 実習 【到達目標】 拡大二処置を理解する。			56	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。		
49	【授業単元】 拡大二処置 【授業形態】 実習 【到達目標】 拡大二処置を理解する。			57	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。		
50	【授業単元】 拡大二処置 【授業形態】 実習 【到達目標】 拡大二処置のシナリオ訓練			58	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。		
51	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。			59	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。		
52	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。			60	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。		
53	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。			【評価について】 後期試験として拡大二処置の実技試験を行う。			
【特記事項】							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅱ (SimulationⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	安齋 勝人・瀧美 栄一 大越 一生
	学科・専攻	授業 形態	実習	総時間 (単位)	180時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日3～4時限・水曜日1～4時限
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を習得する授業を行う。想定を自ら作製することで病態を理解し、現場に近い状況を実習する。 救急現場で一人で行えることは限られていることを理解し、就職時にチームの一人として活躍するスキルを身に付けて欲しい。実習がメインの授業で多くの観察・処置を自習する。現場では同じ症例はない。そのため遅刻、欠席せず、すべてのアドバイスを貪欲に学んで欲しい。							
【到達目標】 知識に基づく観察からの確かな判断で救急救命士に必要な技術を習得する。 解剖生理を理解し観察結果と病態を臨床推論することができる。 救急チームとして仲間と連携し、個人のスキルを上げ活動時間の短縮をはかる。 実施する観察と手技はただ覚えるのではなく、意味を理解し効果を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト(上下巻) 改訂2版JPTECガイドブック授業時に 配付する資料				【授業外における学習】 1年次に学んだ知識と技術を復習しておくこと。 授業終了後は学んだ技術を次回に活用できるように復習する。 実技で行った観察と標準テキストの内容を確認しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
61	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。			69	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。		
62	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。			70	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班に別れ活動とフィードバックを実施する。		
63	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。			71	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班に別れ活動とフィードバックを実施する。		
64	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班にわかれ活動とフィードバックを実施する。			72	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班に別れ活動とフィードバックを実施する。		
65	【授業単元】 効果測定 【授業形態】 実習 【到達目標】 拡大2処置			73	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班に別れ活動とフィードバックを実施する。		
66	【授業単元】 効果測定 【授業形態】 実習 【到達目標】 拡大2処置			74	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班に別れ活動とフィードバックを実施する。		
67	【授業単元】 効果測定 【授業形態】 実習 【到達目標】 拡大2処置			75	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 実施班と想定班に別れ活動とフィードバックを実施する。		
68	【授業単元】 効果測定 【授業形態】 実習 【到達目標】 拡大2処置			【評価について】 後期試験として拡大2処置の実技試験を行う。			
【特記事項】							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅱ (SimulationⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	安齋 勝人・渥美 栄一 大越 一生
		授業 形態	実習	総時間 (単位)	180時間 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日3～4時限・水曜日1～4時限
学科・専攻	救急救命士科						
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として救急活動に従事、地域メディカルコントロール・消防学校などで指導教育を担当した教員が、知識を確認しながら現場に対応できる技術を習得する授業を行う。想定を自ら作製することで病態を理解し、現場に近い状況を実習する。 救急現場で一人でできることは限られていることを理解し、就職時にチームの一人として活躍するスキルを身に付けて欲しい。実習がメインの授業で多くの観察・処置を自習する。現場では同じ症例はない。そのため遅刻、欠席せず、すべてのアドバイスを貪欲に学んで欲しい。							
【到達目標】 知識に基づく観察からの確かな判断で救急救命士に必要な技術を習得する。 解剖生理を理解し観察結果と病態を臨床推論することができる。 救急チームとして仲間と連携し、個人のスキルを上げ活動時間の短縮をはかる。 実施する観察と手技はただ覚えるのではなく、意味を理解し効果を確認する。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士標準テキスト(上下巻) 改訂2版JPTECガイドブック授業時に 配付する資料				【授業外における学習】 1年次に学んだ知識と技術を復習しておくこと。 授業終了後は学んだ技術を次回に活用できるように復習する。 実技で行った観察と標準テキストの内容を確認しておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
76	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			84	【授業単元】 周産期 【授業形態】 実習 【到達目標】 周産期の仕組みを理解し分娩に対応することができる。		
77	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			85	【授業単元】 周産期 【授業形態】 実習 【到達目標】 周産期の仕組みを理解し分娩に対応することができる。		
78	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			86	【授業単元】 周産期 【授業形態】 実習 【到達目標】 周産期の仕組みを理解し分娩に対応することができる。		
79	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			87	【授業単元】 デモンストレーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 1年間の成果を発表する。		
80	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			88	【授業単元】 デモンストレーション 【授業形態】 実習 【到達目標】 1年間の成果を発表する。		
81	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			89	【授業単元】 資機材整備 【授業形態】 実習 【到達目標】 1年間使用した資機材の点検整備		
82	【授業単元】 総合想定 【授業形態】 実習 【到達目標】 シナリオ形式で状況評価から病院到着まで実施することができる。フィードバックは観察結果と判断を中心に検討する。			90	【授業単元】 資機材整備 【授業形態】 実習 【到達目標】 1年間使用した資機材の点検整備		
83	【授業単元】 周産期 【授業形態】 実習 【到達目標】 周産期の仕組みを理解し分娩に対応することができる。			【評価について】 後期試験として拡大2処置の実技試験を行う。			
【特記事項】							

科目名 (英)	総合基礎Ⅰ (Preparation for the civil service examⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	徳岡 健男
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	120時間 (8)	前期/後期
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 専門学校教員として、公務員試験科目(人文・社会)を担当してきた教員が、公務員試験合格のための授業を実施する。具体的には首都圏の消防官試験の合格を目指すための「日本史・世界史・地理」および「時事経済等教養」を中心としたものである。授業実施後には、自信をもって消防官試験を受験するレベルに到達することができる。						
【到達目標】 消防官試験で出題される世界史分野について、西洋史・中国史・現代史等の重要事項の知識を身につける。 消防官試験で出題される地理の分野について、地図、地形、気候等の基本知識を身につける。 消防官試験で出題される時事教養問題分野について、特に政治・経済・社会分野の知識の幅を広げ定着させる。						
【使用教科書・教材・参考書】 書名:公務員(東京アカデミー編) 人文・社会 消防官試験・過去問題			【授業外における学習】 自主的に学習計画を立て、着実に計画を実行することを期待します。特に小論文については近年の災害などからの出題が予想されます。災害のあった自治体からの情報を自身でチェックして、授業に出席してください。			
回	授業概要		回	授業概要		
	【授業単元】世界史・西洋史 【授業形態】講義 【到達目標】 イタリア史においてローマ時代から中世までの流れの知識を習得する。			【授業単元】世界史・現代 【授業形態】講義 【到達目標】 第一次世界大戦後の世界と、第二次世界大戦までの流れを理解する。また、その中で日本の関係性を結びつける。		
	【授業単元】世界史・西洋史 【授業形態】講義 【到達目標】 イギリス史において、中世から近代(産業革命)までの流れの知識を習得する。			【授業単元】地理・地図情報と地形 【授業形態】講義 【到達目標】 地図の種類と特徴を理解する。また、大地形の内容と具体的名称を把握し、地図で場所を確認する。		
	【授業単元】世界史・西洋史 【授業形態】講義 【到達目標】 フランス史において、近代・フランス革命の流れを理解し、知識を習得する。			【授業単元】地理・小地形 【授業形態】講義 【到達目標】 小地形の種類を全て覚え、その成立過程を理解する。また地図上でその各場所を確認し名称を覚える。		
	【授業単元】世界史・西洋史 【授業形態】講義 【到達目標】 ドイツ・オーストリア史において、中世～近代までの流れを理解できる。			【授業単元】地理・気候と土壌 【授業形態】講義 【到達目標】 気候区分(ケッペンの気候区分)を理解し、覚える。それぞれの気候区分と都市名を雨温図などから結びつけることができるレベルまで理解を深める。		
	【授業単元】世界史・近代 【授業形態】講義 【到達目標】 アメリカ史において、独立戦争から南北戦争までの流れを理解できる。			【授業単元】地理・土壌と植生 【授業形態】講義 【到達目標】 土壌の種類とその特徴を理解する。また地図上でその具体的な名称と植生を結びつけて理解できる。		
	【授業単元】世界史・中国史 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 中国史において、秦の成立から漢の時代までの流れを理解できる。			【授業単元】小論文 【授業形態】問題演習 講義 【到達目標】 東京消防庁の試験問題から、テーマを決めて800字から200字の小論文を書いてみる。書く際に、まず設計すること、組み立てることを意識して、下書きメモを作成できるレベルになる。		
	【授業単元】世界史・中国史 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 中国史において、唐の成立から清の滅亡までの流れを理解できる。			【授業単元】小論文 【授業形態】問題演習 講義 【到達目標】 東京消防庁の試験問題から、テーマを決めて800字から200字の小論文を書いてみる。書く際に、まず設計すること、組み立てることを意識して、下書きメモを作成できるレベルになる。		
	【授業単元】世界史・現代 【授業形態】演習・講義 【到達目標】 帝国主義による世界分割において、アフリカ分割と第一次世界大戦までの流れを理解できる。			【評価について】 授業ごとに小テストか課題を与え、内容理解の確認をする。また定期試験として筆記試験を行なう。小テスト・課題40点・筆記試験60点、合計100点満点で評価する。詳細は、学則規定に準ずる。		
【特記事項】 本番試験において実力を出すためには日常の生活態度が重要です。日々の学習計画を立て、規律正しい生活を意識してください。						

科目名 (英)	総合基礎 I (Preparation for the civil service exam I)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	藤 雅茂
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	120時間 (8)	開講区分	前期/後期
						曜日・時間	金曜日 3・4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 長年に渡って消防を中心とした公安職の公務員対策に携わってきた教員が、公務員試験の重要度の高い問題を解説することで、1次試験の合格に必要な知識を学ぶ。							
【到達目標】 公務員試験では数的推理、判断推理、空間把握、数学の習得が可否の鍵を握る。そこで本科目は前掲にあげた科目の解法を理解するための一般知識(中学校3年生までの算数、数学)の理解を目標とする。又、同試験は問題の正確な把握が肝要である。そこで、理解力の向上を図るため、国語読解・計算力などの基礎トレーニングも同時に行う。							
【使用教科書・教材・参考書】 オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員地方初級 一般知能 2020 オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員地方初級 数学理科 2020				【授業外における学習】 公務員試験において計算能力と漢字の読み書き、英語の読解力が重要になるので、毎日、Teams上にアップロードした基礎問題への取り組みが求められる。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
	【授業単元】 判断推理 第8章 暗号 【授業形態】 講義 【到達目標】 暗号に関する問題の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類レベルの規則性 の問題を解答できる。				【授業単元】 判断推理 第4章 論理 【授業形態】 講義 【到達目標】 命題、三段論法の問題の解法を習得する。		
	【授業単元】 判断推理 第9章 数量 【授業形態】 講義 【到達目標】 貸し借り、時計のずれに関する問題の解法を習得し、東京消防庁Ⅲ類 レベルの規則性の問題を解答できる。				【授業単元】 判断推理 第4章 論理 【授業形態】 講義 【到達目標】 対偶とド・モルガンの法則を用いた問題の解法を習得する。		
	【授業単元】 判断推理 第10章 日歴算 【授業形態】 講義 【到達目標】 日歴算				【授業単元】 判断推理 第5章 位置関係 【授業形態】 講義 【到達目標】 直線的位置関係、平面的位置関係の問題の解法を習得する。		
	【授業単元】 判断推理 第2章 対応関係 【授業形態】 講義 【到達目標】 二集合対応、多集合対応に関する問題の解法を習得する。				【授業単元】 判断推理 第5章 位置関係 【授業形態】 講義 【到達目標】 空間的位置関係、方位の問題の解法を習得する。		
	【授業単元】 判断推理 第2章 対応関係 【授業形態】 講義 【到達目標】 組み分け、家系図に関する問題の解法を習得する。				【授業単元】 判断推理 第6章 試合 【授業形態】 講義 【到達目標】 リーグ戦とトーナメント戦の問題の解法を習得する。		
	【授業単元】 判断推理 第3章 集合 【授業形態】 講義 【到達目標】 二集合と三集合の問題の解法を習得する。				【授業単元】 判断推理 第7章 証言 【授業形態】 講義 【到達目標】 証言の問題の解法を習得する。		
	【授業単元】 判断推理 第3章 集合 【授業形態】 講義 【到達目標】 線分図を使った集合の問題、包含関係の問題の解法を習得する。				【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 教科書と同等レベルの東京消防庁出題問題を解答することができる。		
	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 順序関係と対応関係の問題を解答できるかどうかを確認する。			【評価方法について】 中間試験40点と定期試験60点で総合し、A～Fの6段階で評価を行う。中間試験、 定期試験ともに記述問題で構成される。式と答の両方を正解しないと得点になら ない。			
【特記事項】							